

編集後記

2024年度は、年間を通して行動制限もなく、活発に教育活動を実施・継続することができた。また、子どもが主体的に活動が続いていくための環境整備や、教職員の同僚性向上を心がけた1年間でもあった。子どもたちの探求的な学びの実践では、自由学園や社会に目を向けた実践や学ぶ楽しさにのめり込む姿も多くあった。日々様々な方に支えていただいたことに感謝するとともに、これらの成長が次年度以降の初等部の学びの在り方の原動力となっていくことを期待したい。

初等部 真中昭典

2024年度は自由学園に男女共学の中等部がスタートしたエポックメイキングな1年でした。確かな土台の上に新しいものが作られていくとはいえ、上級生がいない環境で「中等部」をつくっていくということは、まったく新しい挑戦でした。それは生徒たちにとっても教職員にとってもです。中等部の自治とはなにか、自由とはなにか。まさに試行錯誤し続けた一年間でした。年報のそれぞれの記事から、その新たな息吹と苦労と希望を感じ取っていただけたら幸いです。

中等部 濱野稔子

2024年度は、中等部・高等部が共学化して最初の一年でした。共学化に向けて時間をかけて準備してきたことが形になる一方、実際に生活が始まってから気づく課題も多くありました。その一つひとつに向き合い、試行錯誤を重ねながら「共に学び、共に生きる」あり方を模索した一年でした。探求や飛び級社会人など、新課程で始まったプログラムは、共学化により生徒同士の協働や連携が深まるなど、一層充実した形で展開されました。また、「遠足」のように女子部・男子部で大切にしてきた行事も、その精神を受け継ぎつつ、共学として新たな形を創り出しました。縦割りクラスなど、共学化後に生まれた新しい試みもあります。これらの取り組みを含め、高等部は創造の最中にあります。本年報にまとめられた共学化初年度の記録が、今後の自由学園の歩みの一助となれば幸いです。

高等部 鈴木雄紀

2024年度も、最高学部では様々な研究・教育実践活動が行われた。今回掲載した中には、長い伝統を持ちながらもこれまで教育活動記録として年報には掲載されてこなかったもの、学部教員が行った社会活動記録もあり、教育的成果を伝えるために原稿を執筆してくださった方には特に感謝したい。最高学部の活動を支えていただいた多くの方々に感謝すると共に、年報をお読みいただいた方々に最高学部の教育実践が広く伝わることを願う。

最高学部 奈良忠寿

今年度、自由学園は中等教育段階を共学化し、中等部と高等部が発足しました。自由学園では1999年に最高学部が共学化していますが、今年度の中高共学化を経て全学が性別にかかわらず同じ教育カリキュラムを採用することになりました。創立者羽仁夫妻は、幼い次女涼子の死を経験し、自分たちの使命は「天国を得んとし」働くことと定めます。つまり、新社会を地上につくこと、を目的としました。雑誌の出版事業に続いて自由学園を創立したのは、教育を通じて学校という社会を生徒自身がつくり出す経験をさせ、新社会を創造する人を育てたいと考えたからです。生活を通して学ぶカリキュラムの採用は、その方法として最適と夫妻が考えたからでした。今、社会では男女平等や人権について100年前よりも一層深く考えられるようになっています。すべての人が協力し当事者として社会をつくることは、今まさに必要とされているように思います。そのための教育実践の記録を、今年度も多くの教職員の方々の協力により発信できることに感謝いたします。

資料室 菅原然子